

# まらきら

今、ひとりひとりが...

## 特集 「イガメン」!? 熱き思いを語る

.....2~5ページ

## めざせクッキングパパ やわらかとんかつに挑戦!!

.....8ページ



「行ってきました。男女共同参画映画祭  
お出かけください。1月31日は、  
いきいき未来いが2009」

.....6ページ

新コーナー ハートにきらきら  
「言葉惜しみ」

.....7ページ

2008秋号

第16号

# 「家庭を築く」ということ

## 特集 「イガメン」!? 熱き思いを語る

「読者の声」に応え、さらさら初!!男性にスポットを当ててみました。  
はやりの「イガメン」という言葉でくくりきれない魅力的な伊賀の男性「イガメン」を紹介します。

### 辻本 哲也さん (31歳)

#### 共働き夫婦だからこそ

辻本哲也さんと晃子さんは、職場結婚。共働きの新婚生活がスタートし、やがて新しい命が授かりました。会社の育児休暇制度を利用し子育てのプランを考える中、間もなく晃子さんは、流産の危機に…。

15日間の入院生活と退院後も八ヶ月間の安静を要する状態でした。家事は当然できず寝たきりの生活、その間、哲也さんは買い物、ごみ出し、掃除、洗濯など…すべてをこなしていました。

当時、哲也さんの様子を見てどのように思っていましたか？

「はじめから料理ができる人なので、特に不安はありませんでした。つわりで食べられない時、食べたい物を聞いて作ってくれました。特に、あの頃は、肉じゃがと、うどんがおいしかった。」と晃子さん。



#### ついに来た!!

日曜日に開催とあったので、市内の産婦人科の「母親学級」に行きました。出産のビデオを見たり院内を見学しました。

参加してよかったです。妊婦の大変さを知り、生まれてくる命を心待ちにするようになりました。

そして、長い苦しい妊娠中を二人で乗り越え、「ついに来た!」という思いで新しい命の誕生を待った。

四月、長女 ほのか 萌葉ちゃんが元気に誕生しました。

家事・育児に対して協力的な哲也さんですが、

「今は、妻が一生懸命、子育てを楽しんでいるようなので、頼まれた事以外は見守っています。」と、それでもさっと動ける人。

晃子さんも

「哲也さんが、一緒に子育てに向き合い協力してくれることが一番うれしい。」と。

「ベビーバスでの沐浴は、最初こわかったけど日に日に慣れ、気持ちよさそうな萌葉の顔を見るのがうれしい。」と顔をほころばせた哲也さん。

徐々に、三人の生活リズムが決まってきたという。



#### 「家庭」への思い

「独身時代の一人暮らしで、家事は自然に身に付きました。当たり前前にしていたことが、紹介されるとは思いもありませんでした。」

これからは、

「父親として家庭を守っていかねければ!という責任を感じる。妻に、家のことや近所づきあいなどすべてを任せるのではなく一緒にしていきたい。」

父親の自覚が、暖炉の炎のように、じんわりと温かく伝わってくる人柄に、若い家族を応援したくなりました。

#### あれから三ヶ月

哲也さんに、聞いてみた。

「楽しいです!」

五ヶ月の萌葉は、いろんな表情を見せ、自己主張が出てきました。

泣き出せば、「何をどうしたいんやろ?」と、あれこれ試行錯誤しながらの毎日、夫婦で子育て奮闘中です。

ただ、いろいろと僕が頑張ってみても、妻が抱くとすーっと泣きやむ時、母親はやっぱりすごいな…って思います。

妻にも子どもにも 父親ですごいな と思ってもらえるようになりたいです。

# 「心」を伝えるダンスを

山下 <sup>よういち</sup> 要一さん (30歳)



## 圧倒！ロボットダンス

非人間的な動き：小刻みに体がホップして、瞬間的な動きの連続は、ロボットに感情が入ったよう。圧倒された。筋肉の激しい動きは、地道な練習を必要として内面的な強さを感じました。

山下要一さん(30歳)は、ストリートダンサー。瞳のキラッと輝くさわやかな青年。家業の電気工事の仕事をしながら、週一回ダンスを教えています。鏡が壁一面に貼られたダンススタジオ「ソウルフラワー」で、お話しを伺いました。

## ダンスへの思い

19歳の時、たまたま「ヒップホップダンスをしやへんか？」と誘われ、すぐに魅了された。

「もっと踊りたい。」当時、大

阪で就職していたこともあり、レッスンを受け、そこでロボットダンスを知り、「人ができる動きなのか?」と衝撃を受けたそうです。

24歳で、結婚をして上野での生活が始まります。要一さんは、新生活のスタートを機に「ここでも何かをやりたい!」と思いは膨らみます。ダンス講師になること、コンテストやイベント出場など夢を描きながらの毎日でした。

## オーナーとの出会い

そんなある時、要一さんが踊るビデオを見たダンススタジオ「ソウルフラワー」のオーナー山下勝治・華子夫妻との出会いがありました。

「自分のダンスの思いを認めてくれた人で、踊っているビデオを観て、『なかなかできるやんか、

## 父親として

「実は、妻はダンスを続けることに最初は反対!『家のことができなかつたり、仕事を休むようでは賛成できない。』と、しっかりと言われました。家庭を優先して、子どもを風呂に入れたり寝かしつけたりしています。」

高校の同級生の聡子さんと結婚、李桜ちゃん(五歳)、広生ちゃん(二歳)の四大家族。平穏な日常に、それは突然やってきました。

広生ちゃんは、生後すぐ、異常が見つかり手術、その後も病気を過次々と発症し、長い闘病生活を過ごしました。二人の母親として聡子さんは、弱音を吐かず、ひたすら愛情をそそぎ、育児に看病にがんばり続け、両親父母の助けも借りながら、今年二月に退院することができました。

今は、家族そろって暮らしているけれど、またいつ病状が変わるかわからない広生ちゃんの病気の闘いはまだまだ終らないという…。  
「妻の姿に母の強さを感じながら、いつも励まされています。」  
家族を思う父親の顔で語られた。

## ダンスを楽しむ

仕事、家庭、大きな心配事なのか、なぜ、ダンスを続けられるのでしょうか?

「息子の病状が大変な時、文化祭出場と重なり、ダンスの指揮や準備など、やらなければいけないことはいっぱいあるのに、自由な時間がない、追い詰められた。でも、そんな時、仲間助けられ、励まされながら、どちらも乗り切ることができた。厳しい状態だからこそ頑張れたことで、皆に勇気を与え、勇気をもたらした。」

## 心を伝える

両親も、昨年初めてステージを見に来てからは、活動を認め、協力をしてくれるようになりました。

「やんちゃん」イメージがあるストリートダンスの、地位向上をめざした活動を心がけている。一生懸命踊る若いダンサーへの理解を得られるように、ダンスの技術はもちろろん、人間的にも成長してほしい、という思いをこめて指導をしています。

昨年までに、ダンスに関わる僕のやりたい夢をすべて叶えることができた。今は、まわりへの感謝の気持ちでいっぱい。ダンスで恩返しをしたい…。という思いで続けていきたい。」と、さわやかに語ってくれました。

このインタビューの時、ちょうど、この朝、挨拶に来たという。若者三人の朝の挨拶も、テストを見せさせてもらった。

一緒にやろう!と声をかけてくれたま

# 生きる励みになりたい

## 坂口 直樹さん (31歳)

「介護、福祉関係は、大変な仕事」というイメージを持つ人は多いと思います。

でも、この仕事をする人がいなければ、現在の高齢化社会は成り立ちません。

どこの施設も人材不足が現実です。介護関係の仕事に関わっていただいている方には頭が下がる思いです。

さて、“介護は女性の仕事”という時代は過ぎ、今は男性も多く活躍する職場となりました。

### 介護の世界に飛び込んで

介護老人保健施設(老健)伊賀ゆめが丘で働く介護福祉士 坂口直樹さん(31歳)は、大学卒業後、自分に向いている仕事は何かを考えていました。

祖父が老健に入所していたことがきっかけで、以前から高齢者介護への思いがあり、ケアワーカー(介護職員)の道に進みました。

何も知らずに飛び込んだ女性が多い職場の上、聞きなれない用語の理解にと専門書を読みながら必死の毎日。実務を積み、国家試験に合格し、介護福祉士に。

「資格を得たことで、プロとして意識も変わりました。」と。男性介護職員の役割として、

「仕事をしていて気づいたことですが、同性同士より異性のほうが、コミュニケーションがうまくいくことが多いように思います。」

利用者である高齢者の多くは女性。息子や孫のような男性介護職員とのふれあいは、元気の素になり療養にも良いようです。

### 高齢者に対する深い愛情

男女問わず、だれにでも愛情を持ち、相手の立場に立って考え、理解しようという気持ちで接しています。年齢と共に行動に制限が増え、まわりから相手にされることと少なく寂しい思いをしている高齢者に、人生を、幸せいっぱいに過ごしてもらいたいからです。

その言葉に、坂口さんの愛情の深さを感じました。

「私も、愛を求めているからかも」と少し照れながら。次の体験を話してくれました。

### 意欲を持って生きていく 励みになりたい

全く部屋から出ようとしない引きこもり状態で、乱暴な利用者さんがいました。職員は皆、対応に試行錯誤。

何とか穏やかに過ごしてもらいたいと思っていたのですが、なかなか心を開いてくれませんでした。

それでも、少しずつ会話ができるように。数ヶ月後、散歩へと誘ってみたら、その人は、初めて部屋のドアを開けてくれました。

それから、部屋を出て食堂で食事ができたのは、約一年後でした。

その人に笑顔が戻り、本当に嬉しく思いました。そして、「ありがとうございます。」と涙を流してお礼の言葉をかけてくれました。人生の一期を一緒に過ごせて、満足をしてくれたかなと思えました。

### 私の元気の素は、 「ありがとう」の言葉です。

人が『大変だ』という仕事だから、やりがいを感じています。

「いつも、利用者さんが、どう感じているのか、満足しているのか、



と不安があります。だから、利用者さんからはもちろん、面会に来られるご家族からの『ありがとう』の言葉をもらうと本当に嬉しいです。最高です！」

直樹さんの介護の仕事への思いは熱いくて深い。

今後について、伺ってみました。利用者さんに、もっと行き届いたサービスができるように、仕事内容のレベルアップをめざしていきます。と言っても、一人ではできないので、一緒に働く仲間がたくさんほしいです。

そして、人生のパートナーも、理解ある女性にめぐりあいたいです。

年齢に関係なく、家事、新聞を読む、軽い運動、積極的に友達と交流をしましょう。



坂口さんからの

### 『いきいき長生きアドバイス』

耳が遠かったり、物忘れが多くなったり、頑固になったり・・・そんな高齢者の方が身近（家族）にいたら、たくさん会話をしてください。

◎孤独にしないでください。

孤独は認知症を進めます。

◎コミュニケーションが脳の刺激になります。

現実はいえませんが、介護の現場は、精神的にも、体力的にも大変な仕事の上に、給料が安いいため、職員の入れ替わりが激しく、外国人に介護者を求めるほど人員不足です。  
介護職員が、安心して生活ができるように、制度の改善を真剣に考える世の中になってほしいものです。

## ロボットダンスを踊ってもらいました。

アクション  
START!!

1



2



3



4



5



「イッパコ!!!」

### 特集 「イガメン」!? 熱き思いを語る

取材を終えて

今回、取材させていただいた三人の男性は、さわやかで自然体の方たちでした。でもお話を伺っていくうちに、それぞれの熱い思いや生き方が胸にジーンと響いてきました。

辻本さんは、夫婦で家事、育児をしているとてもステキな男性。一人暮らしの経験を生かしてと、さりげなく言われたが、理想の家庭を築こうとしています。

山下さんは、連続テレビ小説『瞳』の伊賀版とあっていいほど。この取材を機に山下さんのダンス公演に行き「ダンスは踊る人自身の生き方」というセリフを実感。

高齢者への深い愛情をもって介護されている坂口さんは、高齢化社会を全力で支える希望の星。

「イガメン」たちの取材から強く感じたことは、メディアで報道されている問題は、現実の問題、身近に起こっている問題なのだということ。仕事と生活の調和をめぐる彼らの家庭、職場、地域での活躍は、ワーク・ライフ・バランスという人間らしい生き方へとつながっていく気がしました。

# 行ってきました!!

## 伊賀市初、男女共同参画映画祭



去る6月14日、あやま文化センターにて「県内男女共同参画センター3館&2市(伊賀・名張)連携映画祭2008」が、開催されました。

これは、三重県の男女共同参画を推進するためのイベントで、今年は、津・鈴鹿・四日市の男女共同参画センターと伊賀市と名張市の5ヶ所で開催。遠くの津まで行くことなく、地元で、気軽に男女共同参画の映画祭に参加でき、嬉しく思いました。

### ●各会場で上映された映画●

「老親」「オフサイド・ガールズ」

「ミラクルバナナ」「折り梅」

「筆子。その愛-天使のピアノ-」

・・・秋の夜長ビデオ鑑賞はいかが?

映画上映後の「アフター・トーク」では、30~70代の男女10人が集まり、作品の感想を自由に語り合いました。世代や立場が違くと作品の見方も変わり、共感したり、違和感を覚えたり、いろんな人がいて、いろんな考えがあってこそ男女共同参画社会だな・・・と実感しました。

# おでかけください!!

## 男女共同参画フォーラムのご案内

### いきいき未来いが2009

～いのち輝け!! 男女に支えあう いがのまち～

開催日 平成21年1月31日

時間 午後12時 開場

場所 ふるさと会館いが

## 男女共同参画の本棚から・・・ 啓発ビデオのご紹介です!

前号で、紹介しました **ビデオ「大助・花子の男女どっちが得?」**は、多くの団体・グループより貸出しのご利用がありました。

男女共同参画社会について、楽しく知っていただくために、

第2弾 **ビデオ「元気に再チャレンジ～キラキラしてる女性たち～」**を紹介します。

家事と育児に明け暮れる日々に「もう一度自分も働いてキラキラしたい」との思いから求職活動をスタート。そこには厳しい現実が……。でも、同じ思いの仲間や家族の応援で勇気づけられる。

女優 森口博子主演のドラマと実際の再チャレンジで就職した女性たちの実体験話も聞けます。



グループ、サークルや研修会に是非みていただきたいビデオです。  
その他にもありますので、気軽にお問い合わせ下さい。

ハートに、

きらきら

新コーナー《ハートに、きらきら》ここでは、編集員の目を通して、興味のあること、日頃感じていることなどを発信していきたいと思っています。

・・・ある本の中で、こんな言葉を見つけました。

# 「言葉惜しみ」

挨拶など言葉を、言わない、まるで惜しむように使わないこと

毎日の生活の中、いろんな場面で「ありがとう」「ごめんなさい」など、その一言があったらお互い気持ちがいいのに・・・と思う瞬間ってありませんか？

☆最近のわたし 言えてるかな？

はい いいえ

- ① 「おはようございます」など、自分から挨拶をしている。・・・  はい  いいえ
- ② 家族の中でも、「ありがとう」といえる。・・・  はい  いいえ
- ③ 名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている。・・・  はい  いいえ
- ④ 悪いなと思ったとき「すみません」「ごめんなさい」が言える。・・・  はい  いいえ
- ⑤ 「いただきます」「ごちそうさま」をいつも言っている。・・・  はい  いいえ

いただきます！



特に、大切にしたいのは「ありがとう」という言葉です。

「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになる人はいませんよね。素直に「ありがとう」と言える時、人は自分も輝き、相手も輝かせていくことが出来ると思いますよ。

☆きらきら☆  
☆伝言板

パソコンが使える編集員

表紙にふさわしい作品

を募集しています。

そして、☆きらきら☆

のご意見・感想をおまちしています。

お問合せ先  
(ご意見・ご感想等)

伊賀市役所 男女共同参画課  
電話 0595-22-9632 FAX 0595-22-9649  
Eメール danjo@city.iga.lg.jp

6番目の編集員Mが  
ついにデビュー

# めざせ!!クッキングパパ

## 《やわらかとんかつ》に挑戦!!の巻

### おいしいレシピ

#### 材料(5人分)

- 豚もも肉 750g
- キャベツ 5枚
- 塩・こしょう 少々
- 青じそ 5枚
- 小麦粉 } 適量
- 卵 } .....
- パン粉 } .....
- レモン 5切れ
- 揚げ油 適量
- ソースからし 適量

#### 手順

- 1 ラップに豚肉をのせ軽く押える
- 2 塩・こしょうする
- 3 豚もも肉を重ねて伸ばし、青じそ、チーズ等を巻き揚げる
- 4 小麦粉・卵・パン粉をつける
- 5 中温で両面をカラッと揚げる
- 6 キャベツを細かく切る
- 7 ソースにねぎからして大人用、子どもにはケチャップを
- 8 お皿にとんかつを盛りキャベツ、レモン等を添え完成

適量については、その材料に対しての分量です。まずは少なめに。

めったに料理をしないパパが気合を入れて、妻と買物。リーダーシップを取る予定が...



豚肉を牛肉コーナーで探し、青じそ、レモンが見つからず同じ場所ですら...

豚肉が伸びる！押したりすると買った倍の大きさに。切るか丸めるか!? 子どもが参戦。青じそやチーズを挟みこみ、判らなくても子どもに指導。

クチャ時間がかりました。

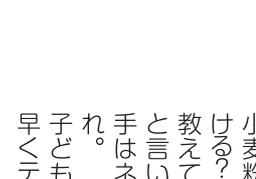
台所に父親、珍しい光景に、親も子どもも「腹減った、ご飯まだ!」とは誰も言わず。おじいちゃんも無言で台所を行ったり来たり。

「料理らしい料理出来たやん」って妻にほめられ、実は嬉しかった。

「おいしい」と言ってもらえたのは嬉しかった。「こつ」が判りかけた気がするので、また、挑戦したい気持ちです。出来て、台所をみたら「祭りのあと」でした。

「おじいちゃん」って食べながら思った。『かんたんやん』って食べながら思った。

さあ揚げるので、でも、揚がってる? 中身が見えない! またまた、妻に救いを求め出来上がり!!



### 編集後記

この16号は、高校生に表紙を飾ってもらうようになって五回目、初の男性の特集クッキングパパの登場と、エネルギーあふれる「さらさら」になりました。さらに、うれしかったのは、前回の特集「農業と生きる」を読んで投稿してくださった女性の声。

山と緑に囲まれ、農業に本腰を入れて頑張る女性のたくましい姿・感動です。農産物・生き物は、手をかければかけるだけ美味しく、期待にこたえてくれます。産地や銘柄、老舗と言われる店さえ、偽装や改ざんで消費者をだましたりと、消費者の不安がつのっている中で、地元安心・安全な農産物に気を配り、又次世代の子どもの土いじり(いもほり)、農を通じての食農教育大変すばらしいことですね。家族が力を合わせ大変楽しい中での農業経営、これこそまさに男女共同参画。私も農家の一人として主人に感謝しながら、自分の出来る作業をしています。農業を頑張る女性の皆さん、農を通じて、ますます地域が活性化されればいいですね。安心・安全で美味しい農産物をお願いします。

【この号の編集委員】  
岡 久美子 稲増 博美  
竹山佐代子 松永 啓子  
三山佳代子

### 読者の声

第15号  
「農業と生きる女性からのメッセージ」を読んで

(60代 女性)